

団体名			事業名	交付予定額 （千円）	融資予定額 （千円）	金融機関	事業背景	事業概要	地域への貢献
1	北海道	美瑛町	フォトギャラリーの多目的活用による地域の文化発信および観光拠点形成事業	22,000 国費：16,500 地方費：5,500	22,000	旭川信用金庫	●農業と観光業が基幹産業である美瑛町では、観光需要が高まる一方、観光客による農地への無断侵入などがおきており、地域住民の生活と調和した観光振興が求められている。 ●農産物の加工販売の推進により農業振興を図っているが、観光需要に供給が追いついておらず、付加価値のある新たな商品の開発や販売場所が求められている。	●廃校を活用したフォトギャラリー「拓真館」を改修し、文化発信や観光振興の拠点として再整備することで、地域住民と観光客が交流できる場所とする。 ●ドリンクスタンド（屋外カフェ）を設置し、新たに商品開発する地域の農産物（とうもろこし、ハスカップ等）を活用したドリンクを提供する。 ●近隣の丘を巡る写真ツアーやワークショップを開催し、観光マナーを啓発する。また、マルシェや音楽イベントを開催し、関係人口を創出する。	●地元産品を使用したドリンク提供により、観光消費額と農業所得額の向上を図る。 ●写真ツアー等により観光マナー啓発を行い、地域住民の生活と調和した観光振興を図る。 ●マルシェや音楽イベントの開催により、新たな文化を発信するとともに、関係人口を創出する。
2	北海道	増毛町	千石蔵クラフトビール醸造・観光拠点整備事業	50,000 国費：37,500 地方費：12,500	100,000	留萌信用金庫 北洋銀行	●増毛町は、かつてニシン漁や海運で栄えた歴史を持ち、明治・大正期の建造物が今も残るが、歴史的建造物や文化を観光資源として十分に生かしていない。 ●「歴史文化の発信と継承」と「産業と観光の連携による観光誘客・雇用創出」が課題。	●歴史的な地域資源である明治期の石蔵「千石蔵」を改修し、クラフトビール醸造設備、厨房、グッズ販売スペース、飲食空間を整備する。 ●地場産果実（リンゴ・サクランボ等）のフレーバービールのほか、清酒酵母を用いたビールを開発し、日本酒蔵発のクラフトビールとして差別化を図る。 ●町の文化紹介や展示を行い、学びと観光を融合させた体験拠点とともに、町内の農水産物を使った飲食や物販を通じて地場産業の販路を拡大し、観光経済の活性化を図る。	●地域内に新たな雇用を生み出し、若年層や女性、Uターン希望者などの活躍の場を提供し、定住促進につなげる。 ●農業者や町内飲食店との連携により、地域内消費の循環を形成。施設来訪者の町内回遊、宿泊・購買による波及効果も見込まれる。 ●歴史的建造物「千石蔵」を活かし、地域の文化や魅力を発信。
3	宮城県	川崎町	青根温泉発信！【温泉・飲食・RVパーク】の複合施設で温泉街活性化モデル創出事業	25,000 国費：16,666 地方費：8,334	29,299	日本政策金融公庫	●川崎町は、仙台市と山形市に隣接しながらも、観光拠点である伊達政宗公ゆかりの御殿湯「青根温泉」の衰退に加えて、町営スキー場の閉鎖により、「通過される町」となっている。 ●町の活性化のため青根温泉を復興させたい。そのためには官民が連携した取り組みによる新たな目的地の創出や商品開発によるブランド力の向上が必要。	●仙台で32年間営業し、借しまれつつも閉店したラーメン店の運営事業者が、町の公衆浴場と連携した複合施設を整備し、「目的地となる町」を目指す。 ●飲食店「湯上り中華そば」：川崎町の水と食材を活用した、身体に優しいラーメンを提供する。 ●全天候型フリースペースの設置：温泉利用者の休憩所、軽食の提供や地元特産品の販売（山菜など）やイベント開催が可能なフリースペースを設置。 ●RVパーク：宿泊需要の受け皿として、近年増加しているキャンピングカー利用者や車中泊利用者などをターゲットとした車中泊施設を提供。	●「目的となる町」への転換を図り、国内外からの観光客を誘致し、交流人口を拡大。 ●地元食材を活用した商品開発と販路拡大により、地域資源の活用と地域経済循環を創出。 ●魅力的な特産品開発で、ふるさと納税寄付件数の増加に貢献。
4	茨城県	土浦市	江戸から続く土浦市醤油の体験ができる古民家カフェ	17,500 国費：8,750 地方費：8,750	17,500	水戸信用金庫	●土浦市は、江戸時代から「醤油の街」として知られ、野田・鏡子とともに関東三大名醸造地として高く評価されていたが、かつて19社あった醤油醸造会社は1社のみとなり、歴史の継承が課題。 ●近年、観光業の低迷とともに地域経済の衰退が顕著となり、地域の持続的な発展に向けた新たな施策展開、観光客や交流人口の拡大が求められている。	●土浦市を代表する醤油メーカーの第300年の古民家を改築し、カフェ営業及び醤油造り体験ができる観光スポットとして整備する。 ●カフェでは土浦産のれんこん・大豆・小麦などを活用したオリジナルメニューを提供するほか、醤油をはじめとした特産品を販売し、地域の魅力を発信する。 ●木桶仕込みの醤油造り体験イベントを実施し、醤油文化の継承と観光振興を図る。	●醤油造り体験を通じて、土浦市の伝統文化を国内外に発信し、地域の認知度を向上。 ●醤油造り体験やカフェ営業により観光消費を促進するとともに、地元農業・食品加工業の販路を拡大。 ●新たな観光スポットの整備により、新たな観光ルートが創出され、地域活性化や地域経済循環を創造。 ●地元住民や学生の雇用を通じて、地域人材の活用と若者の定着を図る。
5	長野県	小布施町	空き家利活用による多機能型地域交流拠点「往来」整備事業	11,575、うちR7:8,068 国費：5,787、うちR7:4,034 地方費：5,788、うちR7:4,034	11,575	八十二銀行	●町内では中高生の放課後の居場所や異世代交流の場が不足しており、高校進学を機に町外へ転出して戻らない傾向がある。 ●移住希望者が地域住民と接する機会が少ない。 ●観光地であるが、長時間滞在が多く、経済効果も限定的で、地域との交流が生まれにくい。 ●中心市街地での空き家・空き店舗の増加が深刻化している。	●町中心部にある空き家を改修し、地域住民や中高生、観光客、移住希望者など多様な人が集う複合的な拠点を整備する。 ●テレワークや学生が利用できるワークラウンジ、地域の人と交流する飲食スペース、長期滞在にも対応する宿泊機能などを設け、多様な関わりと日常的な交流を促進。 ●地域内外の大学・企業と連携した教育・人材育成プログラムを実施し、若者の地域定着や移住促進につなげる。	●空き家活用により中心市街地の賑わいを創出。 ●ワークラウンジの開放により、中高生の居場所づくりと異世代交流の場を提供し、若者の地域定着を促進。 ●宿泊・交流機能による移住体験の場を提供、移住希望者と地域をつなぐ。 ●地域特産品や郷土食材を取り入れたサービスで、地域の経済循環と文化継承の両面に貢献。
6	静岡県	焼津市	内港エリアにおける水産×観光×体験 複合型観光拠点整備事業	46,130 国費：23,065 地方費：23,065	92,270	しずおか焼津信用金庫	●全国唯一の水場高を誇る焼津漁港の水場金額は、最盛期の半分に縮小（S60：約840億円→R3：約400億円） ●JR焼津駅から近い焼津漁港は、観光客の物販等のニーズを満たせていない。 ●カツオ・マグロ等の水産加工品について、ふるさと納税やコロナ禍を機に「BtoC」商流が活性化され、市内事業者の連携機運が高まっている。	●焼津漁港の既存施設を改修し、観光、食の体験、地場産品開発の場としての複合型観光施設とする。 ●市内事業者による地場産品の販売、ライブキッチンによる実演・試食販売、テストマーケティングなどを行う場とすることで、地域のにぎわいの創出を図る。 ●また、市観光協会とも連携し、レンタサイクルの設置、観光案内の窓口となるなど、観光案内機能を有する観光拠点施設とする。	●観光客の増加や、回遊と賑わいによる交流人口の増加を図る。 ●地場産品を開発する場を提供し、市内総生産の増加を図る。 ●地域に新たな雇用を創出するとともに、地場産品の知識だけでなく域内観光知識を備えた人材を育成する。
7	兵庫県	宍粟市	「発酵のふるさと宍粟」にぎわい拠点形成事業	23,806 国費：15,870 地方費：7,936	36,600	西兵庫信用金庫 日本政策金融公庫 MINTO機構にしんまちづくりファンド	●江戸時代に城下町として栄えた宍粟市には、歴史的建造物が多く残っており、築65年の旧山崎幼稚園舎の保存・活用が望まれている。 ●日本酒発祥の地である宍粟市は、「発酵のふるさと宍粟」として情報発信しており、発酵に関連した産業の振興を図っている。 ●地元農業においても、販路拡大、ブランド化、加工・観光と結びついた6次産業化の推進が求められており、農産物の高付加価値化と観光誘客の実現が課題。	●旧山崎幼稚園舎の貴重な木造園舎を活用し、発酵研究所及びカフェレストランとしてリニューアルする。 ●発酵研究所では、地元の果実や野菜（ブルーベリー、イチゴ、柚子、大根など）を使った発酵食品や、お土産・ギフト商品の開発・販売を行う。カフェレストランでは、地元の果実や野菜や発酵食品を使ったメニューを提供する。 ●また、自分だけの発酵調味料づくりのワークショップを行い、観光客と地域住民の交流を促進する。	●発酵を軸とした商品開発による地元農業の販路拡大に貢献し、宍粟ブランド商品の創出につなげる。 ●研究、体験、飲食を1所で提供できる体験型観光による交流人口の増加。
8	和歌山県	田辺市	秘境の地にある空き家地活用による1組限定プライベートグランピング宿泊事業	3,569 国費：2,379 地方費：1,190	3,570	日本政策金融公庫	●田辺市の龍神地域は、温泉や、鮎釣りのできる川など豊かな自然環境を有する地域であり、観光客誘致による地域活性化や地域内消費の拡大が期待できる。 ●コロナを契機に犬同伴旅行の需要が高まっている。 ●しかし、担い手不足等による宿泊施設数の減少が進んでおり、観光客のニーズに対して十分な対応ができていない。	●トレッラーハウスを活用した、犬同伴可能・ヴィーガン対応可能な食材を提供するグランピング宿泊事業を行い、新たな顧客層を引き込むとともに差別化を図る。 ●地域内で採れた地元野菜、ジビエ、アマゴ等の食材をバーベキューで提供し、ウッドデッキなどの設備の一部には、龍神地域の木材を使用する。 ●周辺の温泉、道の駅、観光施設等への周遊を促進し、地域経済循環を図る。	●新たな顧客層を引き込み、地域の魅力を発信することで、更なる観光客数の増加を図る。 ●地元の野菜や木材を活用することで、農業従事者や林業従事者の所得向上、地域内消費の拡大が期待される。 ●周辺施設等への周遊を促進し、地域経済の循環を図る。

地域経済循環創造事業交付金（ローカル10,000）					交付決定事業一覧（令和7年度第6回交付決定）				（単位：千円）	
団体名			事業名	交付予定額 （千円）	融資予定額 （千円）	金融機関	事業背景	事業概要	地域への貢献	
9	徳島県		藍でつなぐ、参加する人と働く人が作り上げる、いきいきとした地域づくり	12,000 国費：6,000 地方費：6,000	12,000	徳島信用金庫	●本県では、観光消費額が他県と比べて低い状況を受け、自然・歴史・文化など、サステナブルな観光資源を活かした「高付加価値なコンテンツの充実」や「持続可能な観光地づくり」を推進している。 ●本県の藍染めは、独特の美しさと風合いで知られる伝統工芸であるが、技術継承や新たな市場開拓が課題。	●藍染め天然染色技術を活用したサステナブルな製品とサービスを提供するため、藍染め工場見学（オープンファクトリー）や藍染め体験ができる施設を整備。 ●売れ残り商品等の藍染めで新たな価値を生み出す、再生・再利用事業を実施。 ●藍染め製品を域外で販売し、藍染め体験やツーリズムの特典、クーポン等の発行により、徳島への旅行・体験誘客を積極的に促進。	●藍染め体験、再生・再利用事業等を通じて地域ブランドを確立。 ●藍染めを核とした新たな体験型観光により観光消費額を増加させるとともに、雇用機会を創出。 ●工場見学、文化講座等を通じて、藍染めの歴史や技術を次世代に継承することで、伝統産業の後継者不足の解消に貢献。	
10	高知県	仁淀川町	町内資源を活用したジン・ウイスキーの製造による地域活性化事業	27,560 国費：20,670 地方費：6,890	41,357	高知銀行	●仁淀川町は、自然景観を生かした観光振興に取り組んでおり、多くの観光客が訪れるものの、飲食、宿泊、土産販売等の施設が不足しており、地域にお金落ちる仕組みづくりが課題。 ●自然を観光資源としているため、荒天時や冬場などのオフシーズンにおける誘客も難しい。 ●町内に蒸溜施設がないことから、現在は県外でジンを製造しており、ブランドの確立につながっていない。	●清流仁淀川の水とゆず・茶等の町内資源を副原料とするジン・ウイスキー等を製造する蒸溜所を整備する。 ●町内外の飲食店だけでなく、関係機関との連携により、海外への販路拡大も目指す。 ●蒸溜所の見学者の受け入れや、体験メニューの造成により、過年の潜在交流観光を推進。	●副原料には仁淀川町の基幹作物である茶や地域食材を、香り付けの木材は町産材を使用し、農林業振興を図る。 ●過年で観光できる蒸溜所の立ち上げにより、町内の周遊促進や観光消費額の増加につなげる。 ●移住者による事業として県内外に広く周知し、新規事業者の参入を促進する。	
11	高知県	日高村	環境負荷低減と地域課題解決を目指す未活用バイオマスを利用した炭灰製造事業	9,540 国費：4,770 地方費：4,770	10,160	高知銀行	●日高村の基幹産業であるトマト農業は、物価高騰により経営が厳しくなっており、トマトの剪定時残渣などの処理費用の負担が大きい。 ●村内には多くの急傾斜地崩壊危険箇所があるが、林業の担い手不足等により、山林管理が十分にできておらず、土砂災害リスクの増大が懸念される。	●トマト茎葉、食品残渣、林地残材、竹などの未活用バイオマスを、特許技術「山仙ブルー炭灰化平炉」を用いて効率的に炭灰製造する。 ●製造した高品質な炭灰は、土壌改良材、水質浄化材、燃料等、多岐にわたる用途で販売し、廃棄物だった資源に新たな価値を付加する。 ●地域内での持続可能な資源循環システムを構築し、廃棄物処理費の削減、農林業支援、環境負荷低減といった地域の課題解決に貢献。	●廃棄物処理コストを削減するだけでなく、未活用資源の買取によって新たな収入源が生まれ、農家所得が向上。 ●地域内での持続可能な資源循環システムを構築し、地域経済を活性化し、 ●森林・竹林整備（治山）による災害リスクの低減。	
12	福岡県	福岡市	「食」で巡る野河内深谷再生計画 古民家再生×多業態ダイニング事業	15,000 国費：7,500 地方費：7,500	15,000	福岡信用金庫	●福岡市早良区の南部には、野河内深谷などの自然環境や、妙福寺庭園などの歴史文化施設がある一方、飲食店が極端に少なく、観光客の滞在時間が短い。 ●少子高齢化と地場産業の衰退により、地域内の雇用機会が限定的。 ●地域の農業は、担い手不足や耕作放棄地の増加が課題。	●古民家を改修して、ラーメン、カフェメニューの提供と、おやき（大判焼）をテイクアウト販売する複合飲食施設を整備する。 ●ラーメンは、かつて福岡市内で人気を集め、コロナ禍に閉店した「中華麵キッチンまくり」のラーメンを復活させる。また、地元食材や加工品を使用したカフェメニューや大判焼も提供する。 ●地元住民と観光客が交流できるイベントや料理教室などを定期開催する。	●来訪者の滞在時間を延ばし、地域内の回遊と消費を促進。 ●新たな雇用機会を創出し、高齢者や子育て世代など多様な人材が活躍できる場を提供。 ●地元食材や加工品の活用により、地域内消費の促進や農家所得等の向上を図る。	
13	熊本県	熊本市	熊本市の「漱石振興」施策と一体になった夏目漱石ミュージアムの設置	35,000 国費：17,500 地方費：17,500	60,000	日本政策金融公庫	●熊本市は、夏目漱石の第3・第5・第6旧居など市内に点在する漱石ゆかりの地をつなげて観光を振興する「漱石振興」を実施している。 ●令和8年度は漱石の来熊130周年と生誕160周年の年であり、漱石ファンをはじめ国内外からの多くの誘客を図るチャンスである。 ●インバウンドの増加やTSMC進出に伴う移住者増加による経済効果を高めるため、新たな魅力づくりに取り組む必要がある。	●漱石の旧居住地に建立するビルを改修し、「夏目漱石ミュージアム」を設置。 ●パネル展示や、地元企業とタイアップした漱石グッズの販売などを通じて、国内外の漱石ファンを惹きつける観光拠点として再構築する。 ●観光案内所の機能も併せ持つことで、市内の回遊性が向上し、観光需要への柔軟な対応が可能となる。	●新たな観光拠点となり、市内の回遊性が向上するとともに、グッズ販売により観光消費額の増加が図られる。 ●漱石ファンには熱心なリピーターも多いことから、他の観光資源との連携により、経済効果を高める。 ●漱石ファンのみならず、子どもたちが文学や熊本文化に触れる機会を創出。	
14	熊本県	南小国町	ICTを活用した女性・若者による「里山の新たな味」共創プラットフォーム運営拠点整備事業	35,000 国費：26,250 地方費：8,750	52,500	肥後銀行	●年間100万人の観光客が訪れる「黒川温泉」を有する南小国町は、産業構造の7割が第3次産業であり、他産業と連携した地域経済循環を図る必要がある。 ●阿蘇の清らかな水と土壌で育まれた農畜産物が生産されているが、新たな付加価値を生み出せていない。 ●女性・若者のニーズに合う活躍の場や業務環境が少なく、町外への人口流出による慢性的な人材不足状態にある。	●黒川温泉中心街の古民家を改修し、地域の農畜産物を活用した新商品の開発・販売拠点を整備する。域内滞在時間の増、観光消費の増を目的に、飲食店・バー・物販も展開する。 ●「熊本学園大学 地域連携センター」とも連携し、新商品の開発や、学生との地域交流を促進。 ●地域の農畜産品と、観光客等の嗜好や希望を一覧化・マッチングし、新商品の開発や商品PRなどを行うための共創デジタルプラットフォームを構築する。	●観光客の満足度向上及び観光消費増による他産業への波及効果で地域経済を活性化。 ●地域の農畜産物を活用した新商品開発で、新たな付加価値を創出し、1次産業を振興。 ●古民家の再生活用による空き家の解消、景観の維持。 ●女性・若者のニーズにあった業務環境整備で新規雇用を創出。	
15	熊本県	西原村	アンテナショップ型宿泊ホテル開設による観光拠点の形成事業	50,000 国費：33,333 地方費：16,667	149,000	熊本銀行	●西原村は、自然を活かした観光スポットや地域産品を有しているが、宿泊施設が少なく、立ち寄り型観光に留まっている。 ●周辺のTSMC関連企業の進出に伴うビジネスユースの宿泊需要が高まっていることに加えて、熊本空港に近接している立地から、インバウンド需要の受入体制の強化が喫緊の課題。 ●熊本地震の経験を踏まえた2次避難所の必要性、多様な働き方としてのテレワーク需要など、宿泊施設のニーズも多様化している。	●アクセス性の高さによる利便性、インバウンド増、企業の参入といった機会を好機ととらえ、観光面とビジネス面での受け皿となり得る宿泊施設を整備する。 ●宿泊施設にはアンテナショップを併設し、西原村の特産品（唐芋、あか牛、落花生等）を販売する。地域内外を結びつける地域観光拠点として活用し、地域経済循環を創造する。	●観光客やビジネスユースの宿泊需要を満たすとともに、滞在型観光による地域経済の活性化。 ●アンテナショップにおける地域の特産品の販売により、販路拡大や高付加価値化を促進。	